

県政 なんでも 相談室

相談
高千穂大津線の整備計画は……

熊本と宮崎を結ぶ県道高千穂大津線は、交通量の激増で道路の痛みがひどいが、新聞などで報道されているところによれば、宮崎県側は、着々と補修が進んでいると聞いています。熊本県側の整備はいつたいどういふことになっていますか。

立野から高森町までは
四十六年度までに完全舗装……

主要地方道高千穂大津線は、
全延長 七二、一六七メートル
実延長 五七、一五四メートル
重用延長 一五、〇一三メートル
内訳
国道五七号(大津・立野間) 一〇、五二〇メートル
国道二六五号(高森町中山・天神間) 四、四九三メートル
となつています。以下国道二六五号の重用部分を含み、立野から高千穂までの区間について述べますと、
全延長 六一、六四七メートル
熊本県側延長四四、七〇七メートル
宮崎県側延長一六、九四〇メートル
で、その舗装延長は、
熊本県側 七・五キロメートル
宮崎県側 二・九キロメートル
ですから、舗装率は、両県とも一七パーセントです。
●維持管理
熊本県側のこの路線の維持管理を

受け持っているのは、一の宮土木事務所高森土木出張所です。同出張所管内の路線職員は八名で、
舗装延長 一〇・六キロメートル
砂利道延長 一一・四キロメートル
計 二二・三キロメートル
を受け持っていますので、一人平均は一五・二キロメートルですが、嘱託員が四名いますので、実質的には一〇・二キロメートルとなります。

ところが自動車交通の多い路線を受け持っているのは平均より少なく、路線職員五名と嘱託員二名の七名で、六六キロメートル(高千穂大津線四四、七〇七)に接続する他の路線二・三)を受け持っていますから、一人平均九・四キロメートルとなります。

また、グレーダーの出動回数は、月に、県境の草部地区は二回、他の地区は三回です。

●今後の整備計画
一宮崎県側
宮崎県道路課の話によれば、延長一六・九キロメートルのうち
改良済 四・二キロメートル
未改良 一二・七キロメートル
舗装済 二・九キロメートル
未舗装 一四・〇キロメートル

一熊本県側
(1)立野から高森町の市街地の東出は、二千万円で四二〇メートルの改良
二千万円で一・五キロメートルの舗装が予定されており、完全に改良と舗装が終るのは、相当さきのことであることでした。



まず受け入れ態勢と 労働力の見通しを

工場が地方に分散していく要因として人、土地、水、原料、消費市場など幾つかのパターンがあります。最近、熊本県に立地しているのは、ほとんど労働力集約型の工場で、例えば、紡績、織物、縫製、ニット製品製造、電気部品製造等の工場は、大阪などの本社工場で人が集まらなくて、地方分散を考えたものです。紡績、電気部品の一部工場を除いて中小規模の企業が多いのですが、労働力流出の歯止めとしての役割を十分果たしています。

電気部品工場のうち大手企業がついたものは、工場規模の確保さえ十分見通しがつけば、ある規模まで拡大していきます。三菱電機熊本工場、九州松下電器熊本工場は、いずれもことし中に千人の工場規模に拡大され、地元企業への発注関係も成立し、地域開発推進のための役割を果たしています。

最近、大手電気メーカーから問い合わせが多くなっていますが、これらの企業は、具体的にどの程度の労働力が集まるかを計算し、さらに、工業用水、地価、輸送体系などをチェックし、総合判断して最高のところに決定しますが、電子工業に至っては、他の条件がいかにすぐれていても、塩害が予想さ

れる臨海部への立地は困難でありま

縫製、ニット製品、プラスチック加工業等は一般に都市型工業と呼ばれ、人口の多いところでは、自然発生的に企業が立地します。その意味では工業立地の自由度の高い業種であり、工業用水、電力その他の制約条件も少なく、土地面積もあまり必要としないので、地元を受け入れ態勢が良く、企業が必要とする労働力が十分確保できる見通しがつけば、進出は割合容易であると思われま

四、五年前企業の地方分散が始まった最初のころにスタートしたものです。球磨郡免田町のヤングニット、荒尾市のアソニットなどすでに生産が軌道に乗って拡大しております。

県では年度当初全市町村に対し、工場適地を照会し、県の出先の東京、大阪両事務所を交え、具体的な打合せを行なって、できるだけ、適地の状況を勉強しておくよう努めています。が、とくに、市町村の受け入れ態勢が十分であるかどうかを将来の企業進出決定後の問題として注意を払っていますのでよろしく願います。

工場が地方に分散していく要因として人、土地、水、原料、消費市場など幾つかのパターンがあります。最近、熊本県に立地しているのは、ほとんど労働力集約型の工場で、例えば、紡績、織物、縫製、ニット製品製造、電気部品製造等の工場は、大阪などの本社工場で人が集まらなくて、地方分散を考えたものです。紡績、電気部品の一部工場を除いて中小規模の企業が多いのですが、労働力流出の歯止めとしての役割を十分果たしています。

電気部品工場のうち大手企業がついたものは、工場規模の確保さえ十分見通しがつけば、ある規模まで拡大していきます。三菱電機熊本工場、九州松下電器熊本工場は、いずれもことし中に千人の工場規模に拡大され、地元企業への発注関係も成立し、地域開発推進のための役割を果たしています。

最近、大手電気メーカーから問い合わせが多くなっていますが、これらの企業は、具体的にどの程度の労働力が集まるかを計算し、さらに、工業用水、地価、輸送体系などをチェックし、総合判断して最高のところに決定しますが、電子工業に至っては、他の条件がいかにすぐれていても、塩害が予想さ

相談
私の村にも工場が
欲しいが……

私の村では、労働力の流出が甚だしく、学校出たての若い人は、こぞって京阪神方向の工場へ就職していき、村に残ったものは、だんだんと老令化し、加えて万国博、地下鉄工事などへの中堅層の出稼者の数も年々ふえ、人口の減少が目を見て深刻な問題となっています。

この結果として、購買力が減少し、経済活動が停滞し、村民の空気も何か気のぬけたような状態です。

従来、村が重点施策としてあげてきた果樹、畜産、そ業などの農業の振興についてもそれらをにらる農業後継者さえも村から流出している状況です。

この対策の最も近道は、工場誘致して働く場所をつくり、そこに労働力を定着させることだと思えますが、果して私の村が工場進出する立地条件を具備しているかどうか、この点についての県の考え方、見とおしについて。

(工鉱課)